

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1452号 1998年08月10日(月)

〈 focus on Asia 〉

香港ドルの対米ドル・ペッグ制維持への疑念や中国元の切り下げを巡る思惑が、今週の市場の中心になりそうです。アジア市場の動揺は円に売り圧力になると同時に、円安に対する当局の介入の可能性を高める。

先週は特に後半にかけて、香港や中国の通貨政策を巡る思惑の高まりから、日本円を含めてアジア各国通貨が下落して、アジア各地の株価も週の最終取引日(一部市場は土曜日)には0.78%上昇した台湾株を除いて全面安となった。アジアの株の中で一番下げたのは香港のハンセン指数で、金曜日に株価は3.25%下げて7018.41と7000割れ寸前となっている。他のアジア市場株価の最終取引日値動きは、インドネシアが2.36%安、マレーシアが2.86%安、シンガポールが2.49%安、韓国が2.30%安、中国が1.65%安など。

通貨も、韓国ウォンを中心に大幅に下げた。同国のウォンは一時国内で懸念が出るほど上昇して、1ドル=1200ウォン台になっていたが、先週末にかけて急落して1326ウォンとなった。正式な通貨切り下げとなったのはベトナムのドンで、実質7%の切り下げとなって公式レートは12998となった。ベトナムのドン切り下げは、輸出の減少と貿易赤字の増大に対処したもののだが、「新たな切り下げ懸念が残る幅」との見方が出ている。市場は、既に次の切り下げを予測している。

香港ドルのペッグ制離脱、中国元の切り下げ懸念が出ているのは、香港と中国の経済が徐々に悪化して現状の為替レート維持は無理との見方が強まっているため。こうした見方の台頭を受けて、ヘッジファンドなどが活発な動きを示している。中国では、他のアジア諸国通貨の切り下げで輸出が大幅に落ち込み、この結果国内生産活動が低下して失業が増大していると言われる。

仮に中国が元の引き下げを余儀なくされた場合には、他の諸国が自国通貨の再切り下げを余儀なくされるとの見方が大勢。江沢民主席はこの週末に北京東方の保養地・北戴河で日本の高村外相と会談して、「中国は人民元レートの安定に努めている」と述べて切り下げ思惑を否定した後、「小淵内閣が経済政策で実効を上げ、アジア経済の安定を図る上で貢献して欲しい」と注文を付けた。

光沢民主席の週末の発言は、依然として中国が人民元の切り下げに抵抗していく姿勢で

あることを示すものですが、中国経済の実体が悪くなっているのは確かであり、売り攻勢が続いた場合にはどのくらい今の為替レートを維持できるかは疑問のあるところだ。

《 intervention ? 》

アジア通貨の一層の混乱は円に対しても下方圧力になると同時に、その下げが加速してアジアや日本の金融市場混乱の元凶と見なされる状況になった場合には、介入が実施される可能性が高まります。 前回の介入は、クリントンの訪中などを控えたという時期的な側面も強かったのですが、今回はそういうイベントがないという点は指摘できる。その分だけ、介入の可能性は低くなるからだ。

しかし、新政権が発足し、政府サイドから見ると次々と政策を打ち出しているのに株式市場も為替市場もこれを少しも評価せず、株安、円安に振れているのは不満でしょう。それが良い悪いの問題は別として、政府としては市場に「再考」のきっかけを与えたいと考えるのが自然です。

介入が成功するかどうかは、アメリカがこれに協力するかどうか、日本の金融関連法案の国会審議がどのようなペースで進むかなどに掛かっています。小淵新首相の施政方針演説は、本人としてはかなり力を入れた演説だったのですが、海外からは「uninspiring」などと総括されていて、評判は良くない。この評判は金融市場の反応を見ての評価でしょう。

当局としては頭が痛いところです。環境から見れば、150円に接近し、アジアの通貨情勢が混乱している状況では、介入が実施されると見ます。欧米が夏休みで市場が薄いのも、介入をしやすくしている。ただし、145円の前後でもちあいとなった場合には、当局は市場には介入しないでしょう。

今週の主な予定は次の通りです。

12日(水曜日)	7月の貸し出し・資金吸収動向
13日(木曜日)	6月の国際収支
	8月の金融経済月報(日本銀行)
	速水日本銀行総裁の会見
	7月の米小売売上高
	米30年債国債入札
14日(金曜日)	7月の米鉱工業生産・設備稼働率
	7月の米卸売物価

ニューヨークの株式は先週後半にかけて小反発しましたが、まだ不安定だと考えるのが自然です。最近のニューヨークの株価はダウで9000ドル台に乗せては落ちるといのを繰り返している。「株価にはあまり上がって欲しくない」とのグリーンSPAN連邦準備制

度理事会議長の意向は良く知られているだけに、今の時点で10000ドルに接近するには無理がある。としたら、上値を押さえられているということだ。資金は、世界的なデフレ傾向もあって、債券に移っている。

上値が限られている市場ほど、魅力のないものはない。こうした環境下では、市場はしばしば逆サイド（下値）を試そうとする。今のところは、「安値は買い」のセンチメントが強く、従ってボックスの動きとなっていますが、下値不安が常に存在することは確かである。

《 have a nice week 》

冴えない天気ですね。涼しいのは良いのですが、この季節なのに雨が多い。以前から聞いていたのですが、新潟や東北地方では日照時間不足が深刻で、どうやらお米が不作のようなのです。ちょっと心配です。

今週からは、夏休みもまさか。電車も空いている。何かイベントがなければ、電子メールも減るのが夏の特徴です。皆、away に居ると言うことでしょうか。このニュースも今週末から来週いっぱいにかけてお休みする予定です。皆様には、良い夏をお過ごし下さい。

<http://209.143.130.89/>